木曾の一平

豊島与志雄

青空文庫

むかし、木曾の山里に、一助（いちすけ）といふ年とつたきこりがゐました。

一助のところに、一平（いつぺい）といふ若者がゐました。一助の孫で、両親に早く死なれて、一助のてつだひをしてをりました。

一助と一平とは、いつも仲よく、山へ薪をとりに出かけ、その薪を町へ売りに出かけました。

ところが、ときどき、一助はへんなことをいひだしました。

「わしは、どうしても、手づかみでとつた大きな鯉が、たべたくなつた。幾日かかつてもよいから、大きな鯉を、手づかみでとつてきてはくれまいか。」

一平は答へました。

「はい、とつてきませう。」

一平は、お祖父（じい）さんの一助に、たいへん孝行です。

一平は川へ出かけて行きました。

ところが、大きな鯉を手づかみでとることは、なかなかよういではありません。川の中を歩きまはり、深いところは泳いだり水にもぐつたりして、大きな鯉をさがしました。そして見つかると、手でつかまへようとしますが、鯉はするりと逃げてしまひます。

一平は、毎日毎日、川へ出かけて行きました。

たうとう、ある日、大きな鯉を、手づかみでとることができました。

一助は山から帰つて来て、一平の肩をたたいてほめました。
「えらい、えらい。こんな鯉を手づかみにするとは、日本一の若者だ。」
一助はその鯉を料理して、一平といつしよにたべました。

一平はまた毎日、一助について、山へ薪をとりに出かけました。
ところが、あるとき、一助はまたいひだしました。
「わしは、どうしても、手づかみでとつた兎が、たべたくなつた。幾日かかつてもよいから、兎を一匹、手づかみでとつてきてはくれまいか。」
一平は答へました。
「はい、とつてきませう。」
そして一平は、野や山へ、兎をさがしに出かけて行きました。
ところが、兎を手づかみでつかまへるのは、鯉をつかまへるより、いつそうむづかしいことでした。せつかく兎を見つけても、兎はす早く逃げてしまひ、隠れてしまひますので、どうにもしやうがありません。
それでも一平は、毎日毎日、野や山へ出かけて行き、兎を見つけては追つかけました。ころんだり、崖からおちたりして、怪我をすることもありました。
たうとう、ある日、兎を一匹、手でとらへることができました。

一助は、一平の肩をたたいてほめました。
「えらい、えらい。兎を手づかみでとらへるとは、日本一の若者だ。」

そんなことが、たびたびありまして、一平はもう、すぐれた若者となりました。きこりをしてゐますから力が強いうへに、水にもぐつたり泳いだりすることもじやうずだし、木に登ることもじやうずだし、山坂をかけまはることもじやうずでした。

その一平をつれて、一助は、山へ薪をとりに出かけながら、うれしさうに話しかけました。
「お前はもう、日本一のりつぱな若者だ。だが、山奥で、大きな熊に出あつたら、どうするかね。」

一平はすぐに答へました。
「熊なんかにまけはしません。くみうちをして、なぐり殺してやります。」

一助は笑つていひました。
「それはいかん。もしも熊の方が強かつたら、お前はただむだ死にするだけだ。熊といふものは、とびかかつて来る時、後足で立ちあがるから、そのすきをねらつて、なんとか工夫をしなければいけない。考へておきなさい。」

一平は考へこみました。

しばらくすると、一助はまたいひました。

「お前はもう、日本一のりつぱな若者だ。だが、山奥で、大きな大蛇に出あつたら、どうするかね。」

一平はすぐに答へました。

「大蛇なんかにまけはしません。頭を叩きつぶしてやります。」

一助は笑つていひました。

「それはいかん。もしも大蛇の方が強かつたら、お前はただむだ死にするだけだ。大蛇といふものは、おそひかかつて来る時、しつぽにいちばん力をこめるから、そのすきをねらつて、なんとか工夫をしなければいけない。考へておきなさい。」

一平は考へこみました。

しばらくすると、一助はまたいひました。

「お前はもう日本一のりつぱな若者だ。だが、山奥で、もし鬼に出あつたら、どうするかね。」

一平はすぐに答へました。

「鬼なんか恐ろしくありません。大きな声でどなりつけてやつて、それでもまだむかつて来るやうだつたら、頭の角をつかまへてねぢふせてやります。」

一助は笑つていひました。

「それはいかん。もしも鬼の方が強かつたら、お前はただむだ死にするだけだ。鬼といふものは、頭の角のむいてる方にはすきがなく、そのほかの方はすきだらけだから、そこをなんとか

工夫しなければいけない。考へておきなさい。」

一平は考へこみました。

一助はいひました。

「わしは若いころ、軍団の兵士になつてゐて、賊をたいぢしたこともあり、熊や鬼に出あつたこともあるが、怪我ひとつしなかつた。どんな危いばあひも、工夫してきりぬけて来た。人間は、力が強いばかりではいけない。智慧もなければいけないよ。考へておきなさい。」

「はい。」と一平は深くうなづきました。

さういふふうに、一平を育てあげてゐた一助ですが、その一助が、ある日、たいへんなめにあひました。

薪をせおつて、山から戻つて来ます時、里の方で、人人のたち騒ぐ声がしました。その時、一助は一人きりで、一平は家で薪わりをしてゐました。

一助は人人のたち騒ぐ声をぼんやりききながら、山をおりて来ますと、むかうに、人人の逃げ走つてゐるさまが見えてきました。

すると、とつぜん、大きな猪（ゐのしし）があらはれて、こちらへかけて来ました。

大きな猪は、なにか傷をうけ、猛（たけ）りくるつて、すさまじい勢ひでかけて来ます。頭をさげ、牙（きば）をむき出し、目を光らして、突進して来るのです。

畠の中の一本道です。一助は猪をよけて畠の中に逃げようとしましたが、重い薪をせおつてゐるものですから、ちよつとぐづつきました。そのまに、もう猪は、一本の道を、まつしぐらにかけて来ます。すぐ目の前になりました。

とつさに、一助は、道の上にばつたり伏せました。猪の牙は、一助のせなかの薪のたばにつつこみました。

猪は、頭をひと振りしましたが、その勢ひで、ぐるりと向きがかはつて、こんどは里の方へかけだしました。牙は薪のたばにつつこんだままです。薪のたばは丈夫な繩でゆはへてあり、それがまたせおひ木にしばりつけてあり、せおひ木は、一助の肩から腰へむすびつけてあります。

猪はなほ猛りたつて、かけだします。牙には、重い薪のたばと、その下に一助が、ひつかかつてゐます。

その猪のゆくてに、一人の若者が立ちはだかりました。一平です。

一平はす早く着物をぬぎ、それを両手にひろげて、まつぱだかです。

猪は突進しました。とたんに、一平はちよつと身をよけて、着物をぱつと猪の頭にかぶせました。と同時に、もう、一平は猪にとびのつて、着物で猪の頭を包みながら、しつかと抱きついてゐます。

猪はたちどまりました。牙には重い荷をひつかけたまま、とつぜん頭を包まれて、まつ暗に

なつたので、びつくりしたのです。

一平は猪の頸をしめつけました。里の人たちもかけつけて来ました。鎌や斧で、たうとう猪をたいぢしました。

一助はほとんど気を失つてゐましたが、たいした怪我もなく、ぶじに助かりました。

一平のはたらきは、里の人人の評判になりました。ことに、あのばあひ、猪の頭に着物をかぶせた考へに、人人は感心しました。

そのことが、土地の役人の耳にはいり、やがて、一助と一平とは呼び出されて、一平はご褒美を貰ひました。

その時、一助は役人に願ひました。

「この一平は、力もあり智慧もあるりつぱな男に育ちました。どうか、軍団の兵士にとりたててください。そして、ものの役にたつ者といふお見込みがつきましたならば、どうか、衛士となして、都へつかはしてください。都には今、いろいろ悪者がはびこつて、天子さまにも、み心をいためてゐられますとか、うはさにききました。一平を衛士として、都を護らしてください。これが私のお願ひでございます。」

それをきいて、役人は感心して、ううむとうなりました。

一平はうなだれて、涙にくれました。一助がいろいろなことにかこつけて、一平を強くすば

しこい者に育てあげ、なほ、事にあたつて賢い考へを持つやうに育てあげたことが、いま一平にもはつきりとわかつたのです。

それからまもなく、一平はまだ年が若いにもかかはらず、軍団の兵士にとりたてられ、やがて衛士となつて京都へのぼりました。

一平は京都でいろいろ手柄をたてました。のちには、衛門府（ゑもんふ）の役人にしゆつせしました。そして一助も一平といつしよに住み、安楽な一生をすごしたさうであります。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第一六巻」ほるぷ出版
　　1977（昭和52）年11月20日初刷発行
底本の親本：「先生の心・長彦と丸彦」新潮社
　　1942（昭和17）年12月
初出：「幼年倶楽部」講談社
　　1942（昭和17）年9月
入力：菅野朋子
校正：門田裕志
2012年1月3日作成
2012年12月19日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

木曾の一平

豊島与志雄

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/